

蓋表と鉢の胴側面に、五輪の牡丹文を表している。蓋表中央の畳付内部にも、同じモチーフの牡丹文があるのは、この鉢に一層華麗な印象を与えている。これらの牡丹唐草文はすべて浅肉彫で表わされているが、流麗きわまりない。さらに花卉や葉脈などの細部に細線を刻み、繊細さを加えている。こうした陽刻技法は中国・耀州窯青磁から伝わったと考えられるが、釉色といい、彫技といい、本歌とはまったく別種の境地を切り開き、高麗青磁を世界でもっとも優美艶麗な青磁に仕立てている。本例は高麗青磁最盛期に生みだされたもっとも美しい作品の一つであろう。鉢の内底にも陽刻牡丹文があるが、他の箇所には比喩刻線が硬いのは、場所の関係から彫り難かったからと考えられる。釉色は深い灰青色、艶やかで貫入もない。器底は平底で露胎である。